Q８　図形問題が苦手な子どもには，どう対応したらよいでしょうか

子どもの状態

○　積み木やブロックで手本どおりの模様が作れない。
○　面積や体積を求められない。
○　どの角とどの角，どの辺とどの辺が等しいかが分からない。

←

状態の理解のポイント

- ものの形の違いの見分けや，回転の方向が分かりにくい。
- 図形の名前や性質などの記憶や系統的な整理が苦手である。
- 図と地の区別がつきにくい。
- 論理的思考が苦手である。
- 手先が不器用で，道具の使用が苦手である。

考えられる対応

○　「なかまさがしゲーム」，「まちがいさがしゲーム」など，視覚的なゲームやパズルで，形や回転に対する感覚を養う。
　大きさや向きが同じものから始め，次第に変化を加えていくようにする。（図97）
○　大事な情報に集中できるように，大切な部分を目立たせたり，他の情報をカットしたりする。

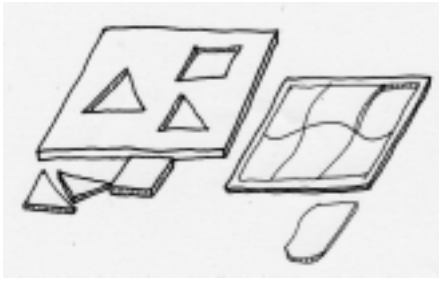

図97　パズル例

○　竹ひごやゴムでいろいろな図形を作って，頂点の数や辺の数に気付くようにする。
○　部分から全体を推測するような教具で，部分と全体の関係をつかむことができるようにする。（図98）
○　挿し絵や簡潔な言葉で作図の手順を示したカードなどを準備して，一人でも混乱せずに取り組めるようにする。
○　子どもが取り扱いやすい作図用具（コンパスや定規等）の選択をするようにする。
○　実際にものを作ったり，入れ物の容積を量ったりするような具体的な活動経験ができるようにする。

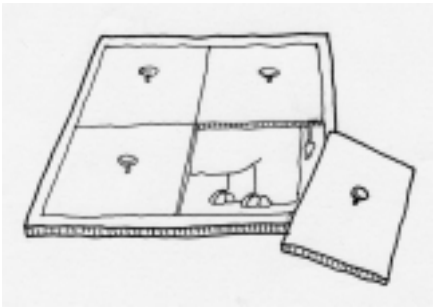

図98　教材・教具の例

◇　家庭でも手伝いや地域の活動など様々な体験を通して，よく観察したり，次はどうなるか考えたり，ものをつくったりする。（図99）

図99　家庭での体験